

発行所 〒102-0083
東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル内
日本海洋少年団連盟
電話 03(5213)4778
(年6回奇数月の1日)
購読料 1部10円(送料実費)
会員会費には購読料が含まれる
振替東京 5-13846番

海洋少年団通信

Japan Sea Cadet Federation

ちかい

1. 海のような広い心で団結し、すべての人を友とします。
2. からだをきたえ、心を養い、立派な海の子になります。

第53回日本海洋少年団全国大会 役員会及び団長会議を開催



権藤実行委員長の挨拶

日本連盟は、10月29日(土)福岡市内の八重洲博多ビル3階会議室において「第53回日本海洋少年団全国大会第1回役員会」及び「団長会議」を開催した。

役員会は前川日本連盟会長の挨拶のあと、次のとおり審議等が行われた。

① 第53回全国大会の役員について、大会会長に前川日本連盟会長、大会副会長に岩崎林、権藤各日本連盟副会長、大会委員に福岡海洋少年団から宮崎父母会会長、宮地副団長、日本連盟から磯谷理事、青木事務局長が就任すること、また、大会名誉会長、名誉副会長名義が決定した。

② 大会運営規程について、実行委員会を設置すること、実行委員長は大会会長が指名すること、実行委員会に委嘱する事項、大会の会計処理基準は大会役員会において決定することなど、運営の基本とすべき事項が承認された。

③ 全国大会について、平成29年8月4日(金)〜7日(月)まで福岡市にて開催することとし、開催要綱が承認されるなど、全ての審議等を終了した。

四国地区海洋少年団強化・活性化プロジェクト・チーム総会を開催

四国地区海洋少年団強化・活性化プロジェクト・チーム第1回の総会を10月4日(火)高松市内で開催した。

メンバーは、四国地区連盟、日本海洋少年団連盟、四国運輸局、第六管区海上保安本部、愛媛内航海運組合連合会、四国旅客船協会、四国海事広報協会、四国船舶工業会、四国小型船舶工業会、今治造船、正和汽船が参加した。

最盛期には四国地区に16の海洋少年団があり、現在、実際活動を行っているのは松山、今治、高知のほか、今



パレード会場の視察

主な日程は次のとおり。

8月4日 集結日 記念写真撮影、国際会議場での競技委員会。

第1日目 イベントバースでのパレード。国際会議場での開会式、ロープワーク競技、手旗競技、団長会議。

第2日目 地行浜海っびビーチでのカッター、カヌー、ゴムボート、ヨットなどの競技。同ビーチでの閉会式、友情の集い。

第3日目 オプションで海上保安庁の巡視船による体験航海。

国際海洋少年団協会年次総会開催される

10月8日から12日まで国際海洋少年団協会(ISC A)の2016年次総会がインド、ムンバイにおいて開催された。加盟国12カ国25名に加えてオブザーバーとしてフランスから1名が参加、日本からは日本連盟磯谷理事長及び橋川国際委員長が出席した。



会議の様子

会場は、インド海洋少年団の訓練施設である練習船(船の型を模したコンクリート製の建物) JAWAHAR である。

年入団した5名を中心に活動している伊方の4団となっている現状、また、高松市内に海洋少年団を設立しようと昨年10月に発起人会を開催したとの報告があり、今後設立のための方向性についての意見交換等を行った。



橋川国際委員長と磯谷理事長

橋川国際委員長と磯谷理事長が出席した。また、今年度の日本での交流の日程説明と参加を希望した。

会議二日目 午前中、個別折衝が行われ、我が国は、香港、韓国などと次回の国際交流についての打ち合わせを行った。

午後、オブザーバーであるフランスからISC A加盟に向けての作業状況や活動の説明が行われた。

会議一日目

議長を務めるインドのラビ氏の歓迎挨拶のあと、亡くなられた元スウェーデン代表のヨハン・フィッシュャーストローム氏に対し黙祷を捧げた。

続いて出席者の自己紹介が行われ、議事録署名者の指名、2015年年次総会議事録の承認が行われた。

最終日

最終日は、午前中に各国から今回の会議に対する意見表明がなされた後、次回開催国のオーストラリアから開催場所はブリスベン、日時は10月21日から23日を予定している旨表明するとともに、準備状況の説明があった。

その後、これまでにISC Aの活動に対し貢献のあった者に対し感謝状が送られた。

午後は、国際レガッタの視察を行い、各国の海洋少年団員が一生懸命力を合わせて競技する様子を見学した。

夕方には、後部甲板でサヨナラパーティーが開かれ、各表彰や主催者に対する感謝の記念品が贈られた。最後には、ISC Aの旗がインドからオーストラリアに引き継がれ、全日程を終了した。

なお、今回、橋川国

会議二日目



ISC A旗の引継ぎ

同行してくれました。シーカデットの子ども達は、伝統的な踊りや手旗を披露して会を盛り上げたり、食事の給仕を手伝ったりとキビキビとした振る舞いに感心しました。

インドは多くの宗教や人種が入り混じる国で、ガンジーらの独立運動でインド独立から70年経っているにも関わらず、イギリス統治時代の建物や現代のカースト制度を目的の当りにし複雑な思いがしました。

しかし人々は明るく親切で遅く、タクシの運転手は、英語は学校で習ったのではなく仕事をしながら学んだと話し、駆け引き上手に値段の交渉をしてきました。

今年初めて私達レディイスにも参加記念の盾を頂く場面が設けられ感激しました。インドでお世話いただいた多くの方々に心より感謝しています。

(橋川裕子)

今月の主な記事

- 2面〜3面 カナダ派遣感想文
- 3面 各地活動報告(酒田団、青森県連盟、敦賀団)、みどりの広場、4コママンガ
- 4面 我ら海の子展受賞作品



レディイスプログラムにて



平成28年度 国際交流 カナダ派遣感想文

カナダ国際交流に参加して

南勢団 団長 橋川 玄

今年の交流は、7月23日から8月7日まで、日本、アメリカ、イギリス、オーストラリア、スウェーデン、香港、韓国、7か国が参加して行われた。集団行動や海洋活動は主として、バンクーバー島の北部コマックスにある、カナダ海洋少年団のトレーニングセンターの一つであるクオードラで行われた。ここは、カナ

カナダ国際交流

南勢団 田畑みのり

私ははじめての海外、英語もあまり自信がなかった。最初は不安だらけでした。クオードラの宿舎ではスウェーデンの子とペアだったけれど上手くコミュニケーションがとれず落ち込むときもありました。訓練も大変、英語の指示は聞き取れない、



訓練の1コマを撮ったが、一番楽しかったのは「OJT」でした。皆がいろんな仕事をこなすなか私は「ミュージック」を選択しました。これは楽器を持って近くの学校

催国の歴史や文化、習慣に触れ異文化を理解するところにある。これまで香港、韓国の国際交流にも参加したが、今回の交流はOJT(On the Job Training)実地訓練)が主体で、団員たちは基本動作、帆船実習、航海実習、ダメージコントロール等日本では経験できないような訓練に参加し、各国団員に交じって二週間熱心に取り組んだ。夏休み中なので、カナダ各地から単位団が集まり、鼓笛隊とともに基本動作、マーチ、国旗掲揚などを毎日一生懸命行っていた。その成果を州都ヴィクトリアで一般市民の前で公開し、その後コマックスの町でも同様の儀式を行い、国歌などが演奏され、参加者たちも斉唱し、地域と一体になった活動の重要性を実感した。施設でも国歌の演奏と同時に各国の国旗掲揚が行われ、インスペクションと称する団員の査察に参加する機会を得た。

今回体調を崩した団員もいたが、その際引率指導員には病状の説明を求められる。その場合、特別な単語も使われるので、身体部位や症状を表す言葉を覚えておく方がいいと思う。言葉の問題は、絶えず付きまとうが、遠慮せずに他の団員や指導員に聞く勇気をもって臨んでほしい。様々な体験が団員たちの今後の人生の糧になればと思う。

訓練している音楽隊の人たちと一緒に練習するというのが楽しかった。自分はユーフォニアムしか吹けないけど渡されたのがトランペットでいきなり不安でした。いざ学校につくと音楽隊の子たちは私より少し年下でとても親しみやすかったです。中には日本人とのハーフの子もいて私のかわらぬ英語を翻訳してくれました。どんな小さなことでも質問してくれたり日本が好きだと喜んでくれました。このときコミュニケーションをとるんだなと勉強させられました。

カナダや他の国の海洋少年団を見てみると日本と全然違って驚きました。制服の他に訓練服という迷彩服を持っ

カナダでの国際交流を終えて

鹿兒島団 武田 英孝

今回、海洋少年団の国際交流にあたり、派遣先のカナダに約20日間滞在しました。初めての海外ということ、出発前から非常に楽しかったです。出発に際し、オフィサーの橋川団長はとても優しく、英語も堪能であり、海外経験が初めての自分にとって、非常に心強かったです。

カナダまでは成田空

港から飛行機で約9時間かかりましたが、飛行機の中では日本語の映画や、機内食等のサービスがありとても快適でした。到着したのはバンクーバー空港でその日は空港内のホテルに宿泊し、自分はイギリスの団員と同じ部屋になりお菓子の交換や、自己紹介をしたりしました。翌日から訓練所(HMCS QUARA)に移動して訓練を行いました。訓練は日本の海洋少年団とは違う行進のやり方や、整列、立ち居振る舞いのすべてを教えてもらいました。また、海での水泳やセーリング、ハイキングなどカナダの自然を満喫できる訓練もありました。

交流面は、お土産を交換したり、ビリヤードをしたりと、有意義な時間を過ごすことができました。

訓練が終了し、帰国するまでの残りの4日間は、ビクトリアやバンクーバーを観光しました。ビクトリアでは、ショッピングをメインに博物館や灯台、海軍施設の見学、大画面での映画鑑賞と日本では体験できないものがたくさんありました。バンクーバーでは、ショッピングや夜市に行き、買い物したりビーチでカナダ全体を飛んで旅をしたりととても楽しかったです。カナダ最後の夜にはお別れパーティーがあり、とても豪華なディナーをみんなでカナダでの思い出などを話しながら食べました。

今回のカナダでの国際交流で得たものはとてもたくさんあり、これからの団活動や、私生活に役立てていきたいと思えます。

最後になりますが、出発から帰国までお世話になった橋川団長、日本連盟中島さんには大変お世話になり感謝します。

過酷な訓練

中日団 木村 優花



ヴィクトリア庁舎前で移動のバスは皆すぐくテンションが高くて初めに日本との差を感じました。

HMCS QUARA訓練所に着いた。訓練は行進練習、帆を張る練習、OJT運動をしたり見回りをしたり壁を乗ったりビクトリアを行進したり、全ての訓練が初めてでした。

訓練は行進練習、帆を張る練習、OJT運動をしたり見回りをしたり壁を乗ったりビクトリアを行進したり、全ての訓練が初めてでした。



朝礼(アテンション)

カナダの国際交流に参加して

南勢団 徳田 奈々子

私は、この国際交流でとても有意義で充実した日々を送りました。カナダに行く前に私は、気候や環境などを下調べをし準備を重ねました。現地についてみると、準備不足な面も多く感じました。どうしても、日本に比べるとカナダの気温を

言われてもピンと来なくて、半袖と薄めの上着で良いかと思っていきました。ですが、実際に行ってみて予想以上に曇りの日や朝など気温が下がり、半袖で眠った夜は寒さで起きるほどでした。私には耐えられず、必要かと思いましたが、一つ厚めの上着も必要だと思えます。ただ、

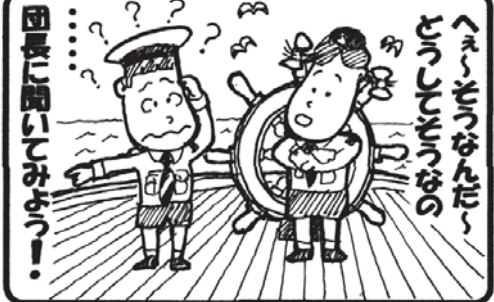
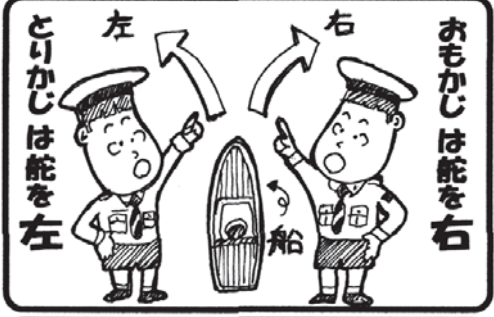
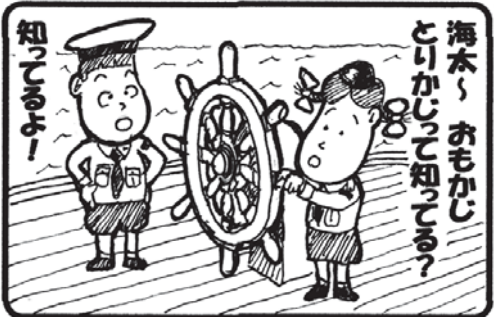
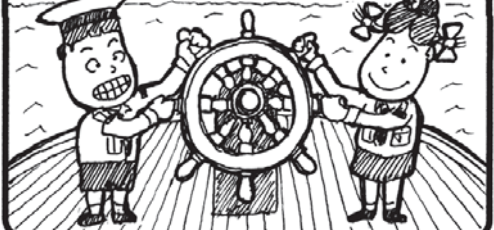
訓練が終了し、帰国するまでの残りの4日間は、ビクトリアやバンクーバーを観光しました。ビクトリアでは、ショッピングをメインに博物館や灯台、海軍施設の見学、大画面での映画鑑賞と日本では体験できないものがたくさんありました。バンクーバーでは、ショッピングや夜市に行き、買い物したりビーチでカナダ全体を飛んで旅をしたりととても楽しかったです。カナダ最後の夜にはお別れパーティーがあり、とても豪華なディナーをみんなでカナダでの思い出などを話しながら食べました。

今回のカナダでの国際交流で得たものはとてもたくさんあり、これからの団活動や、私生活に役立てていきたいと思えます。

最後になりますが、出発から帰国までお世話になった橋川団長、日本連盟中島さんには大変お世話になり感謝します。

うみた ひろみ VOL.136
海太と洋美 作・ちば へーた

おもかじ 面舵・取舵 とりかじ



ばいでした。私は、カナダに行く前から自分の英語力のなさは実感していました。本を読んで勉強してみたり、実際に海外の友人に発音を聞いたりもしました。ですが、英語力がないのは自分が一番わかっていました。勿論、最初は上手な返答もできず悩みましたが、終盤になると日本人と離れ英語圏の



厳しい訓練

し事前の説明が欲しいなど感じる面もありました。訓練の概要など、準備するものも変わります。



人たちが買い物ができるまでに詳しい具体的な訓練の半は皆のことも理解でき、友人のサポートもあり楽しい日々が送れました。皆、とても優しく沢山の迷惑をかけたのに、大丈夫と言ってくれました。同じ時間を共有し笑いあえた日々は宝物だと感じました。他にも、SEACADETだからこその体験も多くなり、文化や考え方を学ぶことにより自分の視野が広まりましたし、日本の素晴らしさを改めて実感しました。私はこの国際交流に参加できてよかったと思います。

酒田団

☆PR行事開催☆



東北地区管内では、7月30日(土)酒田港において東北地区連盟・酒田団とともに、第3回海洋少年団強化・活性化推進行事として、海洋少年団活動への理解と啓発のためのPR行事を開催した。

市民及び小学生、その保護者等に広く声をかけ、手旗、ロープワークの実技披露や体験希望者には団員が手を取り指導を行うなど海洋少年団の活動を広くアピールした。

9月11日(日)、山形県酒田市と鶴岡市を会場に「第36回全国豊かな海づくり大会」が天皇皇后両陛下ご臨席のもと行われた。酒田団からは、式典行事に4名の団員が要請され参加した。団員たちは、団の活動を織り交ぜた海づく

船、同港内外を巡航し、日本海に沈む夕日に故郷の海の魅力を満喫、再認識するひと時であった。本行事は、東北海事広報協会、東北旅客船協会・東北内航海運組合、東北港運協会に東北小型船舶工業会・東北船舶工業会、海上保安協会からの大きな支援と運輸局山形支局及び酒田海上保安部の協力を得て実施したもので、市民の皆さんは、日頃、市内で見かける団員達の活動風景に大きな拍手を送られ、これからの団活性化の動きに効果のあるものとなった。

☆全国豊かな海づくり大会参加☆

秋晴れに恵まれた八戸市において、9月17日(土)から19日(祝・月)まで、「2016青森県大会」を青森県立種差少年自然の家で開催した。初日は、開会式に続き、カヌーの自由練習。夜にはニュー・スポーツ

☆2016青森県大会☆



秋晴れに恵まれた八戸市において、9月17日(土)から19日(祝・月)まで、「2016青森県大会」を青森県立種差少年自然の家で開催した。初日は、開会式に続き、カヌーの自由練習。夜にはニュー・スポーツ

りメッセージを読み上げ、天皇皇后両陛下に放流する稚魚をお手渡しする役目をみごと果たした。いずれも約1200名の招待客が見守る中、立派にやり遂げることができた。



敦賀団

☆恒例のロシア人墓地の清掃と献花☆

敦賀団では毎年秋分の日に、市内の墓地に眠るロシア船員の墓を訪問し、墓地周辺の雑草刈りと墓石磨き、献花を続けている。今年も9月22日(秋分の日)に副団長ら指導員2名と団員(小、中、高校生)10名が参加し清掃を行った。団員らは墓周辺の雑草刈りの後、持参のたわしに洗剤をつけ墓石を磨き上げ、約1時間の作業で墓石も綺麗になり、持参した花を供え船員の霊を慰めた。

お参りする人もなく荒れ放題であった墓を、昭和37年10月に団員が散歩中に見つけ、これまで団の歴代の指導員と団員が彼岸の日に墓を訪れ清掃と献花を続けている。この奉仕活動が平成23年10月に在新潟ロシア連邦の総領事の目にとまり、福井県庁と敦賀市役所を訪れ知事と市長に感謝の気持ちを伝えるとともに団員の待ち受ける墓地を訪れ、団員達にお礼の挨拶があった。同年11月には団宛に感謝状が送られてきた。この感謝状は団の宝として、毎年恒例の奉仕活動の励みとなっている。(副団長 橋詰 武)



みどりの広場

「改めて知った名古屋港」

中日団 吉田 靖吾

8月5日、僕は「海からみる名古屋港&飛鳥コンテナターミナル」に参加した。名古屋港は中日団の訓練や行事などで、よく行くため、特に新しい発見はないだろうと

を積んだり、降ろしたりする作業は、トレーラーの運転手への配慮として、遠隔作業ではあるが人間が操作して作業するからだ。こうした細かい気配りには、とても驚いた。この行事を通して、普段よく行く名古屋港には、知らないことがあり、もっと知らない魅力があるのではないかと思った。

第44回 絵画コンクール

我ら海の子展

受賞作品

国土交通大臣賞 中学生の部

国土交通省 海事局長 羽尾 一郎

海に光が射っていて、明るい日本の未来への思いを感じました。
伊勢志摩サミット記念の年にふさわしいとも感じました。

「光」
加藤 志門(中2) 神奈川県



国土交通大臣賞 小学生以下の部

国土交通省 海事局長 羽尾 一郎

夢をもって、楽しく船ののって進んでいきますという感じが伝わってきます。
一生懸命描いてくれてありがとう。

「震災復興を祈って」
鬼頭 瑞季(小1) 愛知県



日本海洋少年団連盟会長賞

公益社団法人日本海洋少年団連盟 会長 前川 弘幸

“流水の天使”ともいわれるクリオネ達の優雅に踊っている姿が幻想的に表現されています。
□マンチックで美しいこの作品に惹きつけられました。

「氷の海のダンス」
宮内 祥吾(小2) 群馬県



サークルクラブ協会理事長賞

「竜ヶう城はある!」
カラフルな色使いも素晴らしい、見ていただけでワクワクしてきます。
ぜひ行ってみたい竜ヶう城です。

「竜ヶう城はある!」
高瀬 詞音(小6) 静岡県



日本船主協会会長賞

一般社団法人日本船主協会 会長 工藤 泰三

船の誕生を祝う進水式の様子がドラマチックに描かれています。
希望に満ちた式の様子や見守っている人々が細部まで表現されている感動的な作品です。

「光へ出港」
稲富 壮真(中3) 鹿児島県



近藤記念海事財団理事長賞

一般財団法人近藤記念海事財団 理事長 兼坂 政樹

大胆でシンプルな、この作品に惚れこみました。
力強い線に、4種類の色と上下の配置が絶妙なバランスで作品をまとめている傑作です。

「クマノミ」
山室きなり(年長) 奈良県



山縣記念財団理事長賞

一般財団法人山縣記念財団 理事長 小林 一夫

帆船、コンテナ船、プレジャーボートなどこの作品1枚だけで色々な船が凝縮されて表現されていて感動しました。
海を見守る人達と海鳥の構図も素晴らしく、印象的です。

「大好きな場所」
牧 美紗穂(中3) 東京都



グリーンクロスジャパン理事長賞

一般財団法人グリーンクロスジャパン 理事長 岩崎 照皇

タイトルのとおり、荒波をこえて漁師たちが漁に向かう様子が力強く描かれています。
迫力ある荒波に負けないぞ!という漁師たちのエネルギーで真剣な姿は見ていて元気が出てきます。

「荒波こえて」
梅元 貴弘(小4) 和歌山県



安倍昭恵賞

安倍 昭恵

マンホールと海が繋がっているという、海洋環境を考えさせられる作品です。
また、地元の良さをアピールしたいという地元愛も感じました。ユニークな発想と強いメッセージ性に共感しました。

「海への扉」
佐藤 希美(中1) 新潟県



さかなクン賞

さかなクン

夜の暗闇の中で、漁師さんが沖合いに船を出され、光を海に当ててサンマを集めて漁獲される『サンマ棒受け網漁』の様子が、とーっても元気に!いきいきと描かれていて、感動します!
私たちの食べる美味しいサンマは、こうやって漁獲されているんだ!とギョギョッと伝えてくださいます。

「サンマ漁」
藤原 悠詩(年長) 山形県



河井リツ子賞

河井リツ子

青のはっきりした色調が良いです。いろんな小魚も丁寧に描き分けされていて、深く広い海の様子がいまげできます。元気いっぱいの楽しい作品です。

「ジンベエザメ」
田中隆之将(小2) 奈良県



榎木孝明賞

日本の文化・芸術において、大切な要素が含まれている作品だと感じました。
真剣に仕事をしている人たちの一方で、周りの魚達が楽しそうに描かれていて、私たちの食を支えていることをこの作品が表現しています。

「海の幸に感謝」
小山 里杏(中3) 愛媛県



榎木 孝明